

会 議 要 録

名 称	第4回西予市地域づくり活動センター推進計画審議会	
事 務 局	まちづくり推進課地域づくり活動センター推進室地域づくり活動センター推進係	
	電 話 0894-62-6403	
	FAX 0894-62-6501	
開 催 日 時	令和7年4月30日(水曜日) 13:30~15:10	
開 催 場 所	西予市役所5階 大会議室	
出席者	委 員	12名(欠席3名)
	事務局	4名
議事内容(要旨)	<p>1. 開会 委員長あいさつ：笠松浩樹委員長</p> <p>2. 議事</p> <p>進行：笠松委員長</p> <p><u>(1) 地域づくり活動センター推進計画について</u></p> <p>(事務局) センター主事に関して説明 (委員) 今回の異動で係長から課長補佐の職員が配置された。体力的な面を考慮すると若い職員のほうがいいのではないかと思う。地域によっては、職員自体が小人数で、係長がいない状態となっているため、役職についてはこだわらないほうが良いと思う。 (委員) 係長級以上の職員を置くという話は、支所業務があって、それに対して経験豊富な職員を置くという意味というふうに以前聞いたことがあった。別に能力があれば若い方でもいろんな経験豊富な方だったらいいかなと思う。どうしても行政窓口があるため、会計年度任用職員だけではフォローできない部分もあり、そういう経験と言われてたのではないか。今タブレットでつないだり、電話もあるため、そういうので解決できるのであれば、アクティブに動ける方のほうがいいのかなと思う。年配の方でもアクティブに動ける方はいらっしゃるため、一概には言いづらい。 (委員長) 意見を伺うと、年齢や役職というよりは、適正</p>	

というか、そこで出来るかどうかということのほうが大きいのかなと思う。

他に意見を求める。

(委員) 今、実際に言われた通りだと思う。地域づくり活動センターに対しての熱を持つてる職員の方ですよ。任命されて初めてええどうして私がという職員もおられると思うし、実際に来ていただいた職員の熱の入れ方によって、地域のセンターの動きは変わってくるため、配置される前にちゃんとした希望を持った方を入れていただいて、配置されるのがいいのかなと個人的には思っている。

(委員長) 実態的に動ける、しかも熱のある方ということだと思う。特に、係長級なのかどうか、それ以上なのかというのは、むしろそっちの熱意や行動力、動けたらということかと思う。

ちょっと違った事務的な角度からすると、先ほどの支所業務があるために、こうできなきゃいけないというか、これは職員の役職には余り関係ないのか。

(事務局) 公民館からセンター化になることで、行政業務というのは、いろいろ増えたり、支所が行っていた業務もセンターで出来るようになったこともある。その点を踏まえると、経験豊富で知識などを持たれた職員ということで係長級という形を計画に載せたと思う。先ほど言われたように、今タブレットもセンターに置いてあり、それが支所や本庁の担当課に直接つなぐことも出来る。実際タブレットは余り利用が出来ておらず、住民の皆さんもタブレットでつなげるということも多分知らない方が多いと思う。そういったことを生かしていくと、別段役職に限らず出来ると思っているため、問題ないと思う。

(委員長) むしろそういうのを使いこなせるほうがいいのかもしれない。

主事について。もうそろそろ西予市からもスーパー主事みたいな、そんな動き方をしてる方がいるのではないかと思うが、ますます適した場所で能力を発揮できるような動きになってもいいのかなと思う。

指定管理者制度についての話は引き続き検討していくという話、それから地域担当職員についても、引き続きこれも配置し、よりよい制度になるようにという話があったところである。

それを踏まえて、推進計画の中では、センター長とか、ま

たその中にいらっしゃる職員の話もありつつ、いろんな意見をいただきつつ、またこれを計画の中では整理していきたいと思う。具体的な方向というのはもう少し詰めていく部分もあるかもしれない。取りあえずまた案を出させていただいてからになるかなと思う。

他に意見を求める。

(委員) さっきのセンター主事の件について、行政で任命されて、センター主事になるということだと。やられてるかどうかは確認してないが、センター主事の皆さんに向けての研修というか、任命して任せて終わりじゃなくて、センターでこんなことやってほしいだとか、こういうことが必要だとか、各センターの中でもそういう要望というか、こういうふうな活動してほしいみたいなことがうまく伝わるような機会があるといい。そういう意味での研修とか人材育成というのをセットにしていけるといいかなと思った。

さっきのタブレットをどう使うかというところも含めて、ここは各センターの中も含めて、そういう研修の仕組みをつくっていくと、自分たちが思うようなセンター主事になってもらうというか、実力がある人が来てもらうのも当然だが、実力をつけてもらうやり方を各センターで工夫してやっていくのも要ると思う。そういうふうなことが、仕組み化というか、システムに盛り込まれていくとか、計画の中に盛り込んでいただいて、こういうことをやっていくことが要りますよねということが伝わっていくようになるといい。

(委員長) 研修というのは、地区の中でなのか、市全体としてなのか、イメージはあるか。

(委員) 2段階あると思っている。基本的には市全体でやる基礎型の研修みたいなのがあって、あとセンターの個性がいろいろあるため、各センターの中で少しそういう話合いの機会をもって、センター主事の皆さんとしてはこういうことしてほしいとかみたいなのをやっていけるような2段階の在り方があっていいかなという、ちょっとそこに係る手間がどうかというのがあるが、少なくともセンターが主導的に動いていくための力を、その中で身につけてもらうというか、若手の人が来てそういう力を身につけてもらって成長してもらって、本庁に帰ってもらう形のやり方ができるといいかなと思う。

(委員長) 確かにそういう場を設けるとするのは、そんなことができる、非常に意思疎通も進むんじゃないかなと思う。ミスマッチもなくなるのではないかな。

他に意見を求める。

(委員) センター職員と任用職員のパワーバランスというか、そういうものをその講習の中でしっかり取り入れていただきたいと思う。ところどころ地域づくりにも押されて、センター職員にも押されて自分の行き場がなくなるという任用職員もいらっちゃって、協議の中で、この仕事は誰が担うのかとか、この事業は、センターと地域づくりで協力し合えるのかという振り分けみたいなものも、協議とか、研修会があれば理解が深まるし、そういう情報が共有できるかなと思うため、ぜひしていただきたい。

これまでセンター職員というのが、要するに地縁者というか地域出身の方とか、町内出身の方とかというのが地元では多かったように思うが、今後もそのような人事異動みたいな感じになっていくという方向か。

(事務局) 今後のことは何とも言えないが、今までの話でいうと、最近西予市の職員も市外出身の方が採用されるというケースも増えてきており、市外出身の方が全然縁のないところにセンター主事として行かれているというケースはある。必ずしも出身地のセンターということではないとは思っている。

(委員) センター職員に負担がいかないように、地域づくりのほうもしっかり自立していかないといけないため、逆に地縁者じゃないほうがいいのかないかなというところも考えにある。

(委員) 現在城川町4地区それぞれ主事が地元出身の方でやっている。大分前になるが、地元出身の主事に担当してもらっていたが、その方の住まいが地区外にあって、通いで来てくれてということだった。その当時は地域づくり組織がなかなか成り立ってなくて、主事1人でてんでこ舞いしてる時期があったように思う。地元の会議は大体夜なので、夜に会議した後に、それをまとめて、10時か11時ぐらいになってから自宅に帰るといったことがあったので、できれば出身の方のほうが一番いいと思う。ただし地元出身の市役所の方々もだんだん年齢層が上がっていて、皆さん言われるみたいに、若手の人地元にはいなくなっているため、外部から来てもらうのはいいが、地域の方の目があるため、

やる気のある方のほうが主事には向いているのかなと思っている。

(委員長) 地域の中の職員というのは、センター主事はもちろんだが、担当職員という関わり方もあり得る。主事や担当職員とか、もちろん市外の方もあったり、そういうバランスというか、今後混在の仕方はあるのかなと思う。地区ごとにこれは考えていく必要があるのかなと思う。ただやる気がある方ということ。

(委員) 前に少し言ったが、そのときにボランティアでやってるのか、仕事でやっているのかといった差が見えるようになるかと思っている。住民から見ると、仕事だろというふうに言われてるが、本人にとってみたら、ボランティアでやってるといったところが見える化出来るかと思っている。そういう仕組みをぜひ取り入れてもらって、例えばボランティアでやってるときはハッピーや制服着るとか、Tシャツ、ポロシャツ着てやるんだとか、そんなことが伝わっていくと、職員に対する考え方というか、対応する仕方も少し変わってくるのかなと思うため、ぜひその辺も考えてもらえるといい。

(事務局) 答申(案)の作成方法について説明

(委員) 答申書と推進計画書は別になるのか。

(事務局) 別になる。流れで言うと、審議会を開催し、委員の御意見を踏まえた答申書を市長に対して最終的に出していただくようになる。市長はその答申書を受けて、現在の推進計画をどのように見直すか検討していく形になる。見直した案については、パブリックコメントで意見を求める形になる。

(委員長) 答申(案)の作成方法について、委員に意見を求める。

(委員) 反対意見なし。

(委員長) センター運営及び活動等に対して委員に意見を求める。

(委員) 最近地域任用職員の方が辞められる事例が多いと思う。どうして辞められるのか。そういうところを本人の意見とかを聞いて、そこを検討していかないと、どんどん辞められて、後やっていただく方もなかなかいないような状況のため、そこは研修や意見を聞いて改革をしていただ

くようなことを考えていただきたい。

(委員長) 確かに前もその話が出たところではある。この場での議論にはなかなかかなりにくいかもしれないが、ぜひそういうところの解明と改善ということを進めていけたらと思う。

この審議会にそこまでの権限はないかもしれないが、そういった状況の把握から指摘までできる機会があったらいいかなと思う。

(委員) センター推進審議に直接関わりないかもしれないが、担当職員、西予市職員の方で地域づくりに手を挙げられたり、指名された職員の方たちという仕組みがとても全国的に珍しいという話が、前回の議題であったと思う。

この西予市の一つの特色としてそういった部分があるんだと思い、非常に感銘を受けている。そういった全国的に珍しい事例であれば、そこにもう少し注目されてもいいのではないかと思っている。

地域おこし協力隊として来られた方の中で、大学院を卒業し、卒業の研究が、担当職員について研究されてる方がいると聞いた。

(委員長) 愛媛大学の卒業生である。

担当職員だけではなく、地域づくり活動組織そのものについて、いろんな角度で研究をしていた。現在は、研究場所であった地域に地域おこし協力隊として昨年度からお世話になっている。

(委員) そういう流れもすばらしいと思っている。新しく来られた若い研究されてる方が中心となって、この西予市の担当職員という制度や熱を持って地域づくりに関わっている職員の方たちの動きなどを、研究をベースとして、広報に使えるものにされたらいいと思う。

(委員) この間宇和地区では桜まつりが運動公園の下で行われ、そのときに、センター職員が一生懸命になって取り組まれている姿というのは、本当に感動するし、それに協力しないといけないなという気持ちである。もちろん公民館の時代も一生懸命やられていたが、センターになって、意識的にも深められてきているのではないかと感じている。職員の方については非常に盛り上がっている反面、地域住民とのつながりが果たしてどの程度接近していつておるかということが今後答申の中ですごく重要な部分ではなかろうかと感じている。

宇和地区で桜まつりをしたときに、どなたが来てどなたが準備して、どのような活動をしたのか、お客さんは非常に多いんだけど、そこに携わろうとする地域づくりとして、自分がそこに一步でも入ってみようかなという人はすごく減っている。地区で納涼祭をしても、会場には来るが、準備段階での集合、協力者というのは意外と手薄かなというのが現実的な話である。

公民館活動というのは、そういう中で本当にセンターとして、今から地域で頑張ってもらいたい方には協力しないといけないし、答申でもそこは言ってほしいなという気持ちが強い。

それと、民生委員の立場から言うと、いきいきサロンをすると補助金を出してもらっており、本当にその地域の方、高齢の方にもできるだけ参加して、引きこもりが少なくなるようにということもお願いしながら、要請していると思う。センターと社会福祉協議会、そして地域の大きな組織、福祉団体、そういったところとの関わり、横のつながりというのは、今後もさらに深めて、もちろん今までゼロじゃなくてたくさんやってもらってるんだけど、そこを社協であるとか、センターとのつながり、そういったところとの関連性をより深めていくと、もっと充実していくのではないかな。

これからますますA Iが進んでいくに従って、みんなが協力しようとするところが、人的なものがすごく減ってくる可能性があると思う。その辺り十分に押さえた上で、これからの活動というのはしていけないといけない。むしろA Iを無視するわけにはいけないので、そこを優先しながら人同士のつながりづくりというのは、やはり重要かなというふうに感じている。年齢をとるにしたがって、より考えていただいてほしいなというのは、センターの活動としては、協力していききたいなというような住民を1人でも増やす、育成していくというのが、このセンターの役割になっていくのかなと感じている。人づくり、地域づくりというのは、これからもこの答申の中で重要な位置づけをしていただいて、すごくいい形になったらと考えている。

(委員長) 非常に重要な御指摘で、これはいろんな地区もしくは全部の地区に当てはまることだと思う。今の話を聞きながら思ったのは、住民全体的に減ってるし、日本人全体減っている中で、地域づくり活動に携わるということが

減ってきてる。もうこれ仕方ないことかもしれない。とは言いながらも、全体的に人口が減ってきてる中で、いかに住民とのつながり、地区内のつながりをどうしていくかという、ここがもしかすると原点であり、そこに立ち返っていく必要もあるのかなと思った。

センター職員も、御自身が動く方がすごくいいと思う。次の役割としては、住民同士をどうつなぐのか、住民と行政をどうつなぐのか、センターをどうつなぐのか、そういった目線だったり、そういう方法も必要になってくるのかかもしれない。

それから横のつながり、各団体とのつながり、これもいかにつくっていくか、何かつなげるってキーワードかもしれないなというふうに思った。

(委員) センター化になったときに、市から各全戸配布か何かで瓦版みたいなものが出てたと思う。地域づくり瓦版的な。公民館からセンターに変わりますみたいな案内から、2刊ぐらい出て、それからあんまり見てないような気がする。住民の方だと、まだまだ公民館という意識が強くて、窓口で支所並みにいろんな書類が出せるのに、支所に行くと、それセンターで出来ますよみたいな感じで、行ったり来たりした方がいらっしやったり、これは出来るけどあれは出来ないみたいなことがよく分からない住民の方がいらっしやって、あっち行ったりこっち行ったり、あっちに聞いたりこっちに聞いたりみたいなことがあって、センター化になって、何が出来て、何が現状どおりなのかということとか、あと、一番は営利活動みたいなところも可能になっているけどそれが全然周知されていないので、金儲けばかりしよるって言われてしまう。でも実際は、地域が盛り上がるために営利活動というのがあるし、地域内循環、経済循環をしてるんだよというところが、もっとセンターが新しくなってアピール出来たらいいと思う。今後も瓦版的なものを出して周知していただくといいかなと思う。

全部印刷すると大変なので、広報せいに載せていただくとか、変わってからも定期的に載せていただくと人の目にとまりやすいと思う。

(委員) 西予で広報を出してるが、それを毎月配っている。それに合わせて、センターだよりも各戸に配っているが、配っている認識がない。だから公民館がセンターに変わりました、御存じですか。8割知って2割知らない。という

ことは、その2割の方にいかに徹底させるかということが、重要なことだと思う。西予は何のために、あれだけカラー刷りで20何ページの広報誌出されて、もちろんセンターの広報も一緒に入っている。だからその経費というのは莫大なものだと思う。2割の方が、いかにそういったような広報活動してるというのをもっと認識して、西予の中でも、例えば民生委員の相談が何月何日ですよというのが全部載っている。健康診断なんかも全部載っている。そういうのは企画する方は非常に一生懸命で、その御苦勞をやっぱり我々住民としては認識しないといけないところだと思う。自分は公民館活動でお世話になった方もつながりがあるし、今のセンターの方ともつながりがある。本当にセンターも忙しいと思う。その中でその2割の方にいかに知らせめるかというのは、この答申の中で重要ではないかなという感じがする。

(委員長) 先ほど今も公民館のイメージがあって、内情をよく、何が出来るかは御存じないという方も少数ながらもいらっしゃる。そこにどう知らせていくかということ。大多数の方々は多分御存じなんだけれどというか。

(副委員長) 地域づくりの広報誌って全戸に配られてるのか？自分の地域の分は入るけど、他の地域のは入らないですよね。だから、他のところが何をしてるかというのは全然分からない。城川町でも、前は4つの公民館が、同じ公民館だよりというのをつくっており、どこで何をしてるかというのが分かってたが、センター化になってからは各センターで広報誌をつくるようになったので、住んでいる地域だけしか分からなく、他は何してるかなという感じである。なので、少し情報共有が出来ないなと思って、すごくよく分かってよかったのという話を聞く。

(委員長) 皆さんも同じかもしれないが、御自身の地区については情報は結構流通してるが、地区外のことがあまり分からないということですね。

(副委員長) 西予市の婦人会の会長をしているが、他の団体の例も挙げたように、すごい会員数が減っている。それがセンターになったから減ったとかいうのではないと思うが、高齢化になって、みんなの団体離れの話になってると思う。でも、地域ですごく活動されてる婦人会は辞めていく。なぜかなと思って、やっぱり地域の仕事が忙しくなって、つながってるんじゃないかみたいな感じになってるの

で、そこはちょっと団体離れというのを引き止めるためには、何か婦人会としての在り方を考えなくちゃいけないなと思っている。話を聞いてみると、今までは公民館だったときは、公民館主事が事務局を持ってきて、自分たちは主事とつながって活動してたけど、センターになったら主事が事務局を離れたというところがあって、自分たちで何もかもしなきゃいけないからもう辞めるみたいな感じのところもあるので、それって何か違うんじゃないかなと思って。団体離れとそれをつなげるのはなかなか難しいが、でもやっぱりそのところを皆さん考えてもらったらいいなと思うのと、それが社会教育的なことが段々薄れていってる。さっき言われたように、つながりがなくなってる。だから横のつながりが全然なくて、もう縦だけで、団体だけで何かをしてるみたいな感じになってるので、そのつながり的なものはすごく大事だなと思う。

それと、社会教育的なことも薄れてるし、生涯教育が段々、やってるところはやってるが、全然やってないんで、やっぱりそういうのが薄れてるよねって言って、職員同士でも婦人会の役員同士でも話している。そういうところが廃れているので、そういうところも、もうちょっと中心に置いてほしいなと思う。

(委員長) 結構大きな御指摘じゃないかなと思う。センター化によってこれまで出来たことがなくなったり辞めたり。例えば今、婦人会の事務局とかということで活動がとまるということもあったり、本来、生涯教育もあわせての社会教育機能を維持しつつのセンター化だと思うが、薄くなってるといふふう感じられているのはどういうことなのかとか、そこはちょっと注意深く見ていく必要があると思う。

(委員) 公民館からセンターに変わる一つの目標としては、公民館の主事たちが大変しんどい思いをしてきた。センターに変えて、そういったところ、例えば今、言われたような会計的なところも移していこうということが一つのセンターに向けての立ち上げのときにそういう話が流れの中で、センター化に向かっていたというふうには自分は記憶している。

今、地域任用職員等が入ってくれて、そういったところもある程度地域団体の会計的なところもカバーが出来ないかというふうなところも含めて地域任用職員が入ってき

た。新たなセンターの形が出来たというのも一面あるのかなと思う。ただ組織がなくなっていくということに対しては、何らかの考え方を持っていかなければ、先ほど言われた婦人会などは非常に重要な部分を占めてると思うし、自分の地域でも婦人会という組織自体が既がない。実際にセンター活動の中でイベントごとやるにしても、仮に食事提供するにしてもそういった婦人会的な組織がないと、なかなかイベントごとやるにしても大変だということも実感としてわかる。

ただ、センターに向けて、どういうふうな流れの組織体系にしていくかというところは、もともとの趣旨というところを考えなきゃいけないのかなと思っている。

(委員長) これも先ほどセンター職員と任用職員の位置づけとか、指摘のあったとおりのかもしれない。そこら辺の整理が、もともと整理されてたと思うがどうか。

(委員) センター化の委員会的时候に、社会教育をどうするかみたいな話があって、そこは市長部局がやるよみたいな話になっていたが、具体的な動きが見えてないのは確かにあるかなというのは思った。社会教育の場をどういうふうに保っていくのかということは、センターの中の一つの業務として、やっぱり取り込んでいけない面はあると思ったり、その分を地域任用職員に頼んでやってもらうのかどうかというのは、センターの中の任用職員の働き方にもよるかなと思う。1人だと相当ハードになるので、任用職員が1人でいいのか、少し数があるのかとかということも含めて少し見直しをしていかないといけない部分があるかなというふうに思った。

さっきの任用職員については、辞めていく人が多いみたいな話があったが、前回もその人が独りぼっちのように見えるみたいな言い方があって、どうしても孤立化しがちなのかな。センター長、主事、会計年度任用職員は、表を見ても行政の枠の中に入ってて、任用職員は、ちょっと外へ出たところで連携しますみたいな位置づけになっている。そういう意味では、官民連携のハブになるような役割を果たすという意味合いとしては、そういう位置づけってすごく大事なポジションかなと思うが、具体的に何やったらいいかみたいな目標設定がちょっと見えにくい部分があるのかな。

頼まれ仕事を全部やっていくみたいな話になるので、多

分その地域の中での目標達成度が図れるような目標設定をして評価していきながら、よくやってもらったのかとか、そうでないのかみたいなことが見えるような仕組みなどを少しつくっていく必要があるのかなという気はしてて、地域任用職員の目標みたいなものをどうつくっていくかというところも考えていければいいかな。やっぱり孤立してしまう、ポジション的にどうしても独立性のあるポジションなので、孤立する可能性が高いと思う。地区外の人たちとどうつながっていくのかといった話とか、地域の中で1人だとどうしても孤立するので、2人というふうな、以前、地域おこし協力隊を地域に入れるときに、1人で入れると孤立するので、2人ずつ入れようみたいなことをやってる自治体があったりした。地域の人と相談できる関係がうまくできればいいが、そうでない場合はどうしても孤立してしまう。そういう地域任用職員の人たちがうまく、同じ立場の人と相談ができるような関係づくりがあってもいいと思った。その辺を今後どういうふうにしていくのかという話で言うと、さっきの社会教育の部分を地域任用職員に頼んでやってもらうのかどうかも、またセンターの中で話をしていく必要があるかもしれない。

センターの中で、社会教育の度合いも含めて変わってくるのはあると思うし、さっきの各種団体の事務局をどう受け持っていくかという話でいうと、さっきの婦人会の話も含めて、そこのところをどうしていくかというのは、新たな問題として提起されているため、今回の推進計画の中に、少しその辺のところをうまく盛り込まれていって、どういうふうに改善していくかという方向性が見えてくるといいと思う。

それと地域任用職員と広報の関係はまた別だと思うが、広報については、いろんな形の広報の仕方をどうしていくかというのは、やっぱり考えていけないものがあると思いつながら聞いていた。特に、自分たちの地域外とのところとの交流が出来たり、ちょっとコロナでずっと止まって、手上げでやってるところだけでいうと、成果発表会などをして、それぞれ交流があったが、ちょっとコロナで止まっているので、もう一遍そういうのを復活していくということも含めて考えていけるといいと思った。

そこでさっきの社会教育の部分、いろんな地区でどうやっているのかなど現状も共有していく、そこから新しい発想

を生み出していくということが出来ていけるといいなと思
いながら聞いていた。

(委員長) 今のセンター、また内部の働いてらっしゃる方、
主事、任用職員もろもろ、在り方の明確化とか、今の社会
教育ですとか、福祉もそうかもしれない。在り方、位置づ
け、あとは各団体との連携、存続も含めて、この辺りのこ
とをこうすべきだというのは、答申じゃなかなか間に合わ
せることは難しいかもしれないが、ここをもう少し明確に
しましょうとか、その辺のところは動いてもいいのかなと
思う。

(委員) 続けている人と辞めていく人の違いは、受けたと
きのモチベーションもすごくあると思う。地域づくり活動
センターもそうだが、公民館も実際地域の人から見たら何
してるんだろうみたいなところ、ぼやっとしたところって
すごくあったと思う。地域任用職員がどういう思いで受け
られるかちょっと分からないが、出来るかなと思って行っ
てみたら、意外と土日も支えるとか、夜も支えるとか、自
分も休みたい時に地域の人から電話かかってくるとか、い
ろんな理由があって、多分自分が思った仕事ではないので
辞められる方が多いのかなというふうに思う。自分のやり
たいことが明確化されたり、何かそういうボランティア精
神みたいな土日でも全然オーケーですよとかという方は長
く続けられるのかなって今聞いて思った。これも人だと思
う。やっぱり自分に向かなかった、主事もそうだが、結果
自分に向いてるか向いてないかやってみないと分からない
ところもあるため、どうしても入ってしまったらちょっと
大変だと思うが、心が病むとこれも困るので、途中で辞め
られる方というのも多いのかなと思った。話を聞いて、も
っとオープン化したら、やっぱ自分がやりたいことって明
確にできる人が入って来られるケースもあると思うため、
そういうのを大事にしたらいいいのかなと思って聞いてい
た。

(委員長) 御指摘の中で、自分の思っていたこととやって
ることがちょっとずれてくるとか、それは是正の仕方があ
ったり、または孤立しがちであればフォローするとか、何
か対策は考えられそうである。

気になったのは、提案しても地区の中でうまいこと通ら
ないとか、そういったこともあったようで、地区の中での
任用職員の迎え方も勉強していく必要があるのかなとも思

った。

(委員) 任用職員だからとか、正職だからとかそういう使い分けじゃないが、その立場的なものは内部のことだけであって、いざ利用者としては、みんな一緒である。それをどういうふうな形で、利用者の立場でいうと、そこがすごく気になる。職員に言って分かんないと言われてしまうと、その任用職員に対しても行政的な形を全て教育していただかないといけなくなってくるであろうし、私はこういう立場です。私はこういった事務ですという括りではなくて、この部門にいる、その部署にいる以上、何でもオールマイティにできるような形をとっていかないといけないのが、社会的にも、やっぱり仕事してでもそう思うところで、私たち知らないからって通る訳もない社会になっているため、そういうところがちょっと気になる。

(委員長) おっしゃるとおり、窓口まで行って、同じ場所にいるのに、何でこの人は出来ないの、この人はやるのみみたいな、そういうところですよ。確かにそういうところはあると思う。特に、先ほど広報的にうまく情報が行き渡ってないところだったら、任用職員すら分からないこともあると思う。いろんな規則、制約があったと思うが、なるべく外部の方、組織以外の方から見たときに、その辺の差というかギャップが感じられたり、それでもって中が滞ったりしないようにしなきゃいけないと思う。

(委員) 最近、行政窓口をワンストップサービスと言って、その窓口に行ったら、保健のことだとか、別のことだとかというのを同じ場所に座って職員の人たちが移動して来るというふうな仕組みが結構普及してきてるのかなと。それは市民サービスとして効率いいよという話もあるかなと思うが、そのときに、1人の人がオールマイティに全部やるのではなく、受渡しをする仕組みが出来てるんだろうなと思う。今回センターでいうとさっきのタブレットでいろんなところにつなぐ話があった。そういうのを使っていったときに、自分とこでわからないが、ここへ聞けば分かりますとかみたいなことを言えるような、現場での窓口での対応みたいなことができるようになるといい。そのためには、全部分かるのではなく、ここに聞けば分かるかもしれないというようなことが少し整理出来て、そこはもっと言うとマニュアル化みたいな話で対応出来るかもしれない。そういうふうなやり方をしていく、そのマニュアルは、センタ

一で整備するのではなくて市のほうで整備をしておいて、これを見ながらこの問題は何か係につないだら、リモートで住民の方と部署の人が話をして分かるような仕組みにしていくことが、多分いるんだろうなという気がする。

そういう意味でのワンストップサービスみたいなものにしていけばいいかなと思う。細かなところまで全部頭に入れるのはなかなか難しいため、そういう受渡しをすることが出来ていけば、そこはある程度解決出来るかなという気もしないでもない。そういうところがさっきの経験が高い係長級の人だといろんな部署を回って係長になって、そこはあそこ行けば分かるみたいなのが当初の目論見であったんだと思うが、多分そこが少し変わってきたときに、そのところをこういうふうな形でつなげていったらいいですよみたいなものをマニュアルじゃないが、勉強していく機会が出来れば、住民サービスとして向上していけるかなという気がする。それを任用職員がやるのか、センター主事がやるのか、会計年度任用職員、センター長がやるのかというのは、センターの中で役割分担が少しいるのかなという気がする。

(委員長) ワンストップサービスのマニュアル化、マニュアルで対応出来るそうですね。分かる人はここですよ、照会しますよ、住民が来て人がいるのに何で出来ないんだということとはなくなるかもしれない。少なくともそれは解消されていくのかなとは思う。

(委員) 自分もセンター長を2年務め、例えば、これが税務課の話なのかというのが、係長級レベルでもよく分かってない。それで、先ほど言われたとおり、まず、主事とセンター職員でこういう申請は、税務課であるとか、こういうものは市民課の戸籍の係だという、それが分かればタブレットでつなげるが、つなぐ場所がよく分かってないため、市のほうにお願いしたらと思う。

(委員長) そこは本当に分かりにくいことがあると思う。マニュアル化していくということとあわせて、業務のつながりの明確化、そういったことをどれが何課とか整理していくというのもいいのかなと思う。なるべく市役所の中にも負担がないように、よりいいサービス提供ができるような形になるといいのかなと思う。

(副委員長) 今、センターで任用職員だけがいる時間はあるのか？

(委員) ない。

(副委員長) この計画をつくるときに、情報の漏れがあるので、そういう行政的なことは、主事に聞く、職員で対応する。地域のことは、地域任用職員でというように決めたような気がする。土居センターはすごく恵まれていると思うが、地域任用職員の部屋は全然別個となっている。だから、必ず主事や会計年度任用職員のどちらかは職員の窓口にいる。地域任用職員は別部屋にいるため、窓口で対応することが全然ない。出来たらその感じにしたら地域任用職員に窓口のことを聞いたりすることもない。絶対に任用職員だけがセンターにいることはないと思うので、窓口に来られたら、主事か会計年度が対応するみたいな感じになったら、これは出来るのではないかなと思う。任用職員が行政業務をするのは無理ではないかと思う。

(委員長) 離れてることで物理的に問題になってることはないか？

(副委員長) ずっとはそこにおらず、何曜日の何時から何時まではここにいますという感じである。離れても会計年度や主事との情報は交換出来てるので、特に問題ない。

(委員長) センター化が始まって間もないとはいえ、そろそろ微修正とかよりバージョンアップするようなどこだとか、ちょっとずつあるのかもしれない。つなぎ方とか窓口の対応の仕方とか、これも研修事項というか、そんなところに盛り込んでいったらいいのかなと思う。

(委員) 先ほど社会教育がマンネリでという話で、ちょっと突き刺さった。社会教育に関してもつながりとか、県の会議にも出席しており、他はこんなことやってるいうのもあるため、西予市ももうちょっと元気にできるような勉強していきたい。

もう一つ、ワンストップサービスのことで、ちょっと違う事例であるが、JR大洲駅は卯之町駅と同じように無人駅である。大洲駅は駐車場を無料で使わせてもらっていて、駐車場を借りたい時は窓口でチケットを買いに行った際に、駐車場のボタンを押して、松山の駅員が画面に出て対応している。車のナンバーを教えてくださいと言われてたらチケットをカメラに向けてかざすみたいな感じでやりとりをしている。このようなサービスが行政サービスであったらいいのではないか。支所で細かな税金のことなんだけど、地域任用職員が分からない。センターに iPad があるの

で、それを押したら本庁へ画面がつながるといったのもあったらいいなと思った。本庁にもプロフェッショナルがいると思うので、それがDX化というか、そういったことにつながるし、先ほど言われていた、行ったり来たりしなくていいし、その分交通費も浮くし、労力も防げるため、JR大洲駅、気になるようだったら行ってみたい。

(委員長) そういう事例どんどん紹介いただければと思う。手近なところがそういう省略可、簡素化、いい意味で簡素化が出来るといいかなと思う。

(委員) 今言われたDX化について、センター化になるときの説明会など、こういうふうになりますよということを示されたと思うが、まだ実際にはセンターでは出来てないのかなと思っている。

先ほど言われた婦人会の関係だが、ちょうど自分たちの地域が抜けたばかりというところがあり、社会教育とかで、婦人会の方々いろいろと協力してもらったりしていたが、上部団体から抜けたと言っても、新たに会員を募集したりして今年数人入ってもらい、また活発な活動を進めている。ゆくゆくは少子高齢化で人口が減っていく中でいろいろな役をやって、婦人会もやり、地域団体の役もやりみたいなことがあり、そういう理由もあって脱退されたのかなと思う。やっぱり人が少ないというのは一番いけないと思っている。ゆくゆくは地域づくり会の中で、世話する仕組みづくりをして婦人会の団体とかも、いろいろな補助をしてみたり、逆に地域づくり会に婦人会の方々が協力してもらったり、そういう仕組みづくりが必要になってくるのかなと思っている。

(委員長) 浮き沈みというか、活発になったり、ちょっとお休みしたりというそんな時期もあるかもしれない。

(委員) 地域任用職員の仕事は本当に切りがなくて、やればやるほど年々増えていく状況である。その中でも頑張ってる任用職員もいる。社会教育のところですごく気になってるのが、社会教育しないといけないし生涯教育をしないといけないが、センターに振られるお金というのが、確か年々減っていったと思う。なので、何かをやろうと思っても、講師を呼ぶお金がないとか、材料を買うお金がないという状況になっているのをちょっと聞いたことがあって、文化協会とか、スポ協のほうでも、だんだん予算が減っていく傾向にあったりするので、活発にしたいけど、先

立つものがないみたいな状況になっている中で、そこも地域づくりと一緒にタッグ組めないかなあとも考えている。基礎型交付金というのは、全 27 地区にもらってるお金が膨大にあります。ある程度基礎型交付金の使い道みたいなものをもうちょっと明確にして、例えば社会教育に何%とか、センター行事に何%とか、あと、集会所修繕、今もやっているとと思うが、各集会所修繕に何%みたいな基準を目標数値として、強制ではないので、目標数値として社会教育にこのぐらい目安で使ってくださいよみたいな、今の段階だと、基礎型交付金何に使っていいかというのも自由なので、そのパーセントは、地域づくりと社会教育を地域でやってくださいよみたいなことも協力できるかなと思っている。

(副委員長) 合わせて、一つの地域でするのではなくて、いいことというのは、つなげて、他のところにも呼びかけてやれば、2つのセンターで合わせてやれば、お金は倍になる。そのぐらいやったら人も集まる。そんな感じをつなぐと、城川町だったら城川町でやる。明浜だったら明浜全体でやるみたいな感じでもいいかなと思う。

(委員長) 確かに、せっかくセンター化になって、分野的な壁はなくしていくというのを、これは、お金の流れもそうなってくといい。

(委員) 小規模多機能自治をやろうという話とか、自治機能をいかに持たせるかみたいな話があったときに、松山市がその話をしたときに、一括交付金みたいなのがあって、上部団体があって、老人クラブの県のほうから降りてくるとか、体協は県の体協から降りてくるとか、縦割り形式をなくしたらいいのではないかという話があり、地区ごとに体協に幾ら、スポーツに幾らというふうに振り分ける能力を地域に持ってもらって、一括で渡して、その地域のいろんなパワーバランスに応じて分配できるような仕組みが出来たらいい、やりたいというようなことをずっと言ってきた。そこは県の上部団体から抜けないといけないということもあるが、そういうふうなことをやれたらいい。さっきの基礎型みたいなところに全部入れ込んでいって地域の中でうまく分配してやってくださいみたいなことを出来たらいいという理想論としてはずっとやってきた。松山もそれをやろうとして、地域のほうからよう決めんと返上された。

他の県を見ると、熊本もそれやりたいけど地域から返上された。地域で今動いてくるのは、当時の記憶でいうと、

福岡の宗像市というところが一括交付金で、地域の中で配分をしながら、そういうようにやってるという情報をそのときに聞いて、その地域に視察に行ったことがある。

そういうふうな仕組みを将来目指してやっていきますかみたいなのは、少し今回の推進計画の中に決め込むのは難しいと思うが、こういうのを検討していくみたいなことを入れ込んでいくのも、さっきの社会教育の部分も含めて、そういうのを地域の中の判断で分配できるような力をつけていくようなやり方を目指してやっていければいいかなというのを、今の話を聞いて思った。

そういうことを地域ですると一つの小さな行政区になってしまうので、いろんな福祉の分野のお金も含めて、地域で分配していくようなことが出来ていくと、本当に小規模な住民に寄り添った行政運営が出来ていくのではないかなと思っている。

そういうふうなことを今後、議論していきながら、どうやったら出来るのか、でもなかなか制度上難しいのかも含めて、議論するテーマとして、少し掲げておくのは在り方としてはいいのかなあというふうに思った。

(委員長) 今すぐ難しくても、そこを目指していくという姿勢は重要かなと思う。多分、松山市で出来なくても西予市なら出来そうな気がする。一括交付金というのは、テーマとしては頭出ししておきたい。

(委員) 基礎型の話で、分配する、自分の地域では、ここの部会にこれだけと全部決まっているので、後出しじゃんけんが出来ないというか、こういうことに使ってほしいのになと思うけど使えない。例えば、5万余ったら社会教育にしてとか、最近、子どもの体験をしてとか。それは自由だと思う。一言文言が書いてあれば、社会教育に使っていただける、社会教育を先ほど他の地域と共有したらいいとあった。宇和地域の上三館が最後にあったときに大成功だった。多田と中川と石城との交流で初めて参加させてもらったが、ああいう交流も面白いと思った。人数 100 人ぐらいで山の中ぐるぐる歩いて、狭い多田地区を歩いて。すごく面白い活動で、そういう教育も大事。一言だけ社会教育とつけてもらったらいいなと思う。

もう1つ、社会教育のどういったことをするかというラインナップではないが、こういう講座、こういう画面で多田センター出来ます。中川も受け入れます、石城も受け入

	<p>れますというのが、この講師だったら西予市でいつ受けてもいいみたいなユーチューブなどがあるじゃないですか。そういう契約してもいいんじゃないかと思う。一つの講師の方がいろんな地区で見れるというのも、今、新しい研修制度の在り方としてはそういうのをやってるのでわざわざ講師の方がその地区に来られなくても、画面で出来るということは、研修もそういうふうになったらいいなと思う。</p> <p>(委員長) DX化も含めたら出来そうである。</p> <p>(委員) 直ぐにでも出来そうだと思う。</p> <p>(委員長) いろんな意見をいただいたが、一つ一つをどのような形で答申に盛り込んでいくのか、また議論をしていきたいと思う。</p> <p><u>(2) その他</u></p> <p>(委員長) 次回の協議内容の説明及び日程調整を行う。6月13日金曜日13時30分からの案を提示。</p> <p>(委員) 反対意見なし。</p> <p>(委員長) その他の意見を委員に求める。</p> <p>(委員) 意見なし。</p> <p>3. 閉会</p> <p>(副委員長) 閉会あいさつ</p>
備 考	